

巻頭写真 十和田-八戸テフラ中の炭化材 (Charcoal in the Hachinohe Tephra)

本州北部に位置する十和田火山は、いくつかの大規模な火砕流を噴出させたが、約 13,000~10,000 年前の十和田-八戸テフラ (町田ほか, 1984; 東北地方第四紀研究グループ, 1969 の八戸火山灰層) の上部を占める火砕流堆積物もその一つである。この火砕流堆積物にはしばしば夥しい炭化材が含まれ、一瞬にして山体斜面から下流域の生態系を飲み込んだ当時の破壊的噴火の一端を知ることができる。写真は五戸町手倉橋の集落西側の浅水川に面する露頭である。写真上は遠景、下は炭化材の産状。炭化材は直径 50 cm 以上のものも多く、中心まですっかり蒸し焼きになっている。

文献 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫. 1984. テフラと日本考古学研究—考古学研究と関係するテフラのカタログ。「古文化財の自然科学的研究」(古文化財編集委員会), 865-928, 同朋社.  
東北地方第四紀研究グループ. 1969. 東北地方における第四紀海水準変化。「日本の第四系」(第四紀総合研究会編), 37-83. 地学団体研究会.  
(辻 誠一郎 Sei-ichiro TSUJI)

